

ASAHI

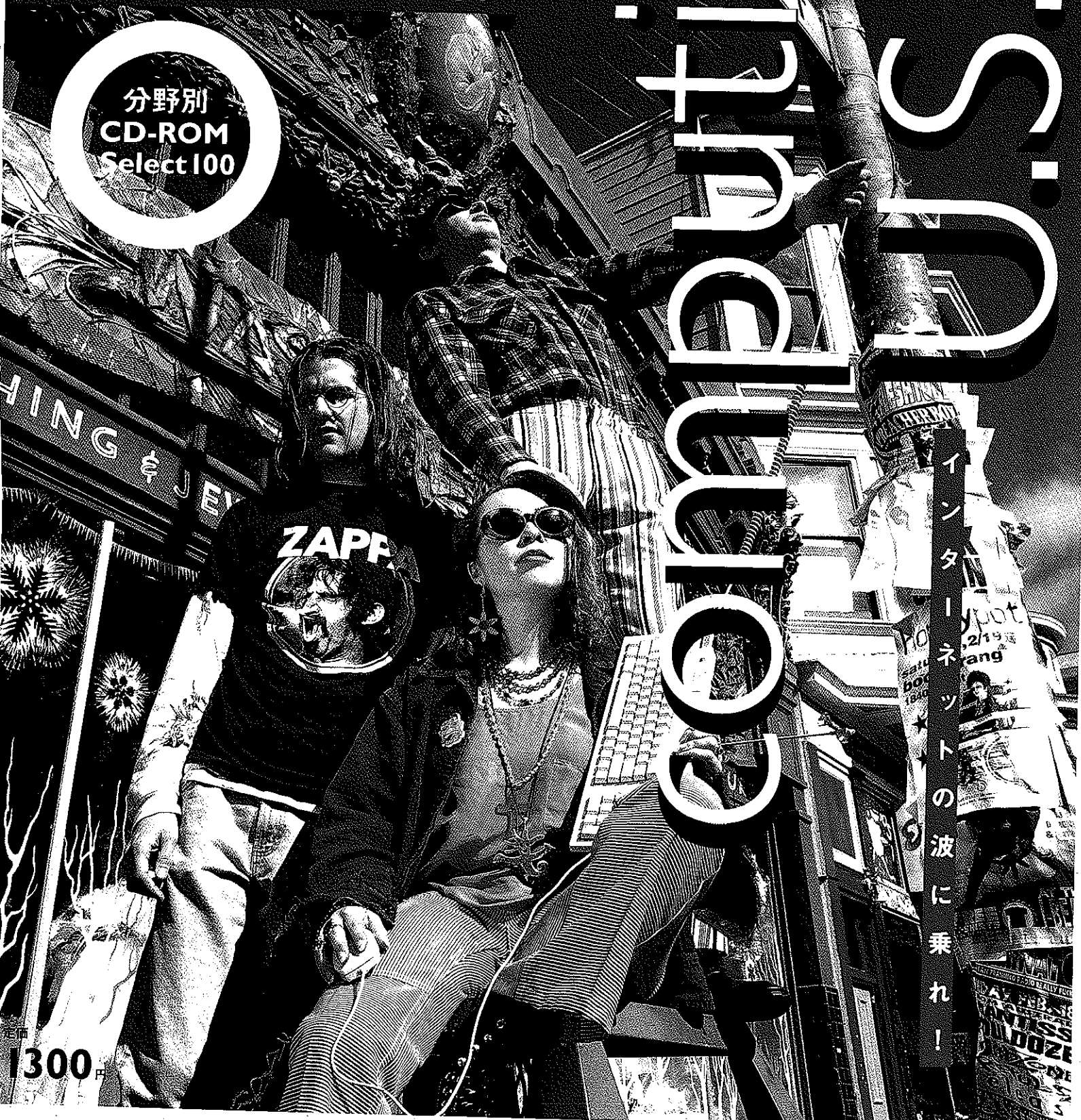
増刊 1994 4/25号
no. 125

平成元年2月2日第三刷郵便物認可 通巻125号 (毎月1日・15日発行) 1994年4月25日発行

2001年、info. super highway ネットワーク時代への招待状

分野別
CD-ROM
Select 100

INFO. SUPER HIGHWAY



1300円

インターネットの波に乗れ!

インターネットへの乗り入れ

ここ最近、インターネットの存在がポピュラーになるにつれ、インターネットに接続する草の根パソコン通信局が増えてきているという。

インターネット接続ができると、どうなるか。市民は、

◆3 ほぼ無料で地域パソコン通信にアクセスしながら、世界中の人に電子メールが出せる。地域の電子会議のほか、メーリングリストや、場合によっては世界的広がりをもつ分散型電子会議にも参加できる。

それなら、この上、高いお金を出して商業オンライン・サービスに入る必要はあるのか、ということになる。つまり、インターネットの拡大で草の根パソコン通信局は力をつけ、あぶなくなっているのはむしろ商業オンライン・サービスの方だ。

「いや、やはり一つのネットであらゆる用を足してしまいたい人は多い」とシャピロが笑って否定する。確かに、商業オンライン・サービスには、一般のニュースや

◆4 飛行機の予約や百科事典や様々なサービスがあって、それなりの使いではあろう。しかし、地域の電子会議で情報交換ができて世界へのメール窓口があれば十分という人も多いのでは。

シャピロも、「草の根パソコン通信局とオンライン・サービスの境界があいまいになってきている」と言う。「10年前は、草の根パソコン通信といえばアクセス回線が1本しかなく、人気のあるパソコン通信局はなかなかアクセスできなかった。しかし現在では、回線を数十本もつパソコン通信もあるし、世界的なネットワークにも接続されはじめています。商業オンライン・サービスとどう区別できるだろうか」

実際どれくらいの草の根パソコン通信局がインターネットに接続しているのだろうか。シャピロの登録されている約400のパソコン通信のうち、ほぼ10%が電子メール・レベルのインターネット接続を実現している。毎週二つくらいの割合で新しくインターネットに接続されているという。全体の半数のパソコン通信が何らかのネットワークに接続されている。

インターネットへの接続には、専用ラインによる◆5「IP接続」と、電子メールだけの◆6「ダイヤルアップ

UUCP接続」の2種類がある。前者はインターネットに全面アクセスできるが、提供元への支払いや毎月の専用回線料金などで少なくとも年1万~2万ドルかかる。それに対して後者は、電子メールだけの接続になるが、月40~50ドルのアカウント料金で済む。パソコン通信運用者に

も十分対応できる範囲なのだ。

街角のカフェから世界へ発信

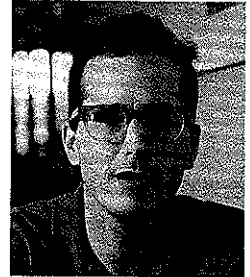
シリコンバレーから、ところ変わってここはサンフランシスコのユニオン・ストリート。ここは、デザイナーショップやカフェが軒をつらねるおしゃれなスポット。

そのユニオン近辺に、サンフランシスコで最近評判になっている「喫茶店のパソコン通信」がある。

この街で若者が集まるようなカフェに入ると、一カ所のテーブルだけ「ビデオゲーム」になっている。コンピュータ端末とわかるデスクトップ型になっていることも。何人かが群がっていたり、時に一人がひっそりキーボードをたたいている。これが知る人ぞ知る、カフェ・ネットことSFネットだ。サンフランシスコ市内や隣街パークレーなど20の喫茶店に公共端末を置く。

「サンフランシスコのカフェは特別の環境だ。人びとが1~2時間、コーヒーを飲みながらゆっくりくつろぐ。何かにせかされることはない。いろいろ想像力がかきたてられ、友人との活発な交流もはじまる」

SFネットのシスオベ、ウェイン・グレゴリーが、いつもの情熱的な口調で語る。公共端末というと、図書館などに置きがちだが、そんな所ではだめだ、と彼は言う。人々の精神が解き放たれる空間に端末がないと、コミュニケーションがはじまらない。



SFネットのシスオベ、ウェイン・グレゴリー。ビジネスは順調だ。

25セントの情報交換

SFネットは1991年に開始され、現在、彼の家486パソコンをホストに32回線で運用する。20の公共端末のほか、通常のパソコン通信で個人の家からもアクセスできる。現在、計3500人のアカウントがある。1日のアクセス数は1100から1200。FIDOネットとインターネットに接続し、全世界に電子メールが送れる。

アメリカではパソコン通信がビジネスになる例も多いが、SFネットはその一つだ。

正規ユーザーになるには月7ドルの固定料金が必要。カフェの端末利用は4分25セント(約30円)だ。

いろいろな人種、民族、ゲイやレスビアン、ホームレスの人たちもこのネットに入ってくる。

「SFネットではカフェからインターネット・メールを送るのに25セントしかかからない。コンピュータを持ってなくても、ここにくれば誰もがメールを世界中に送れる。データハイウエーの議論は国民の関心を高め、ネットワークにアクセスする人を増やす。そのときがパソコン通信局の出番だ」

◆3 ほぼ無料の通信費

アメリカでは競争のある長距離電話も安くなったが、市内通話は、月8ドル35セント(サンフランシスコの場合)の基本料金を払えばタダ。

目下の価格競争は「国際通話」。ちなみにAT&Tのプログラムを利用すると午後2時から8時を抜かせば、日本まで1分なんと66セント。

◆4 飛行機の予約

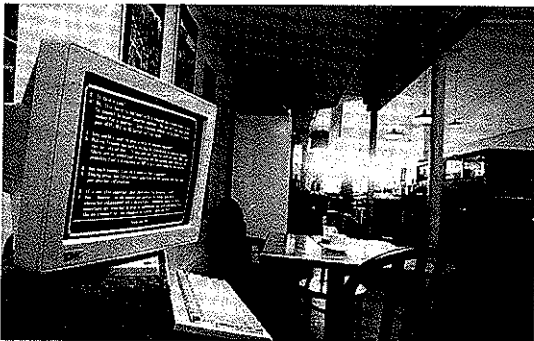
Compu Serveでオンラインで飛行機のチケットの値段、予約ができる。しかしテキストベースでコマンド操作していくので結構難しいと不満という人もいる。

◆5 IP接続

専用回線を使い、インターネット固有のプロトコルを用いた全面接続。

◆6 ダイヤルアップUUCP接続

NIFTY-Serveなど、日本の商業ネットワークでも始まったサービス。インターネット上の資料や情報は検索できないが、IDを持っている人なら、どこかの国のどのインターネットに所属する人でもメールを送ることができるといふもの。



ホームレスもふらりとその日の食料とベッド情報を集めにこのパソコンの前に座る。少なくとも20人のホームレスがやって来る。